

## つくばグローバルサイエンスウィーク（TGSW）への参加（9月28日～30日）

筑波大学ではあらゆる学術分野の最新の研究成果を共有し、より良い未来を実現するために何ができるかを議論する場としてグローバルサイエンスウィークを位置づけている。今年につくば国際会議場において、9月28日から9月30日までの三日間にわたる30をこえるセッションに、国内外、また大学内外から数多くの参加者を集めて開催された。

TGSWにおいて、附属学校教育局は29日に体育系が主催する「オリンピック・パラリンピックムーブメントへの参画」というセッションに参加することとなった。具体的にはWhat can we do for the 2016/2020 Olympics and Paralympics? という題目のシンポジウムへの参加である。

当日は日本の高校生として、本学附属の坂戸高等学校、桐が丘特別支援学校、視覚特別支援学校からそれぞれ桑島祥さん、迫田拳さん、山田翔登さん、地元のSSH校としての茗溪学園高等学校から太田虎之介さん、SGH校としての土浦第一高等学校から多和田萌花さんに登壇していただいた。また今回の企画のためにブラジルから参加からしてくださった、Bruna Lie Misutaniさん、Mario de Godoy Moreiraさんにもご登壇いただいた。

上記7名の高校生は、ロンドンオリンピック・パラリンピックでの教育担当代表者としてのNick Fuller氏の問題提起に続けてそれぞれの意見を英語で述べ、またFuller氏と真田久教授からの質問にも的確に答えていた。さらに石隈利紀教育長が、このセッションの閉会の挨拶で、「高校生の発表は自らの経験と学校教育に基づくものであり、またオリンピック・パラリンピックムーブメントにすでに関わっているものである」と評価した。

高校生たちの意見は翌日のつくば宣言2015に盛り込まれ、その宣言を以って今年度のサイエンスウィークは幕を閉じた。



左上：全景

左下：登壇した日本の高校生。左より太田さん、桑島さん、多和田さん、迫田さん、山田さん  
上：つくば宣言2015を読み上げる迫田さん